

# ワイヤレス・システムの検証

## 第3回 ギタリスト向けワイヤレス ew 172 G3-JB

ここ数年、ワイヤレス・システムを使うバンドが増えています。ワイヤレスを使えばケーブルの取り回しを気にする必要がないので、ステージ・パフォーマンスの幅や自由度を一気に向上させることができます。これまで2回にわたって、ボカール用のワイヤレス・マイクロフォンを紹介してきましたが、今回はギタリスト向けのものを紹介します。ew 172 G3-JBはプロ御用達のSENNHEISERワイヤレス・システムの中でも、ギタリスト/ベーシストに向けたパッケージ。ワイヤレスの利点を活かしつつ、音は犠牲にしたいくない。そんなこだわり派ギタリストのための製品です。

### ワイヤレスを始めよう！

当たり前ですが、ワイヤレス・システムを使わなくても、普通にライブは行えます。しかし、「普通」を「快適」に進化させてくれるのがワイヤレス・システムなのです。まず、ギタリストがワイヤレスを導入することで得られるメリットから見ていきましょう。

### 自由に動き回れる

ワイヤレスを使うメリットを考えた際に、最もイメージしやすいのはやはりコレではないでしょうか。ギター・ソロでステージの前に出たり、ステージングによってはメンバーと立ち位置を変える...ということもあると思います。もちろんシールド・ケーブルの場合でも動くことはできますが、必然的に長いケーブルが必要になるほか、長くなればなるほど取り回しに苦労することになるでしょう。ステージングにこだわっているバンドの中には、ケーブルが絡まないような動き方について事前に打ち合わせをすることもありますが、ワイヤレスであればそのような悩みを一気に解消できます。

パフォーマンス中はあまり動かないという方でも、例えば、アンプのセッティングを変えにいくだけでもケーブルが絡まってしまうことがあるので、ステージ上では何をするにも足元のケーブルに気を遣う必要があります。また、ケーブルを引き回せばそれだけノイズの影響を受けやすくなるので、音質的にも不安が残ります。

その点、ワイヤレス・システムではギターとエフェクター/アンプの間はシールド・レスなので、そういった制限はありません。シールドの有無はステージ・パフォーマンスに大きく関わってくるところと言えるので、ワイヤレスを導入することで得られるものは大きいはずです。

### リハーサル時に外音もチェックできる

ステージ上で演奏している際は、バンドの生音とモニター・スピーカーから返ってくる音がすべてです。フロア（客席）側ではどのようなサウンドで聴こえているのかは知る術がありません。しかし、ワイヤレスを使えばリハーサル時にフロアへ下りて、演奏しながら外音を聴くことが可能です。

本来であれば、外音はPAエンジニアに任せるところですが、バンド全体のサウンド・バランスやギターの音がどのように聴こえているのか...などが気になる方は少なくないと思います。特に、初めて出演するライブハウスや初対面のPAエンジニアの場合、自分たちが出したいサウンドになっているかどうかは、しっかりと確認しておきたいところ。客席でどのように聴こえているかはステージ上で聴いている音よりも大切と言えるので、リハーサルでは外音もチェックして、エンジニアさんに要

望を出す...というのはとても意味のあることではないでしょうか。

### SENNHEISERを選ぶワケ

最近、安価なワイヤレス・システムも登場してきている中で、多くのミュージシャンから支持されているのがSENNHEISERのevolutionシリーズ、ギタリスト/ベーシスト向けワイヤレス・パッケージの「ew 172 G3-JB」です。その人気の理由はどこにあるのでしょうか。

### その1 プロフェッショナル環境での実績

ワイヤレス・システムで何よりも重視したいのは、やはり信頼。SENNHEISER（ゼンハイザー）社はドイツ、ハノーバーに本社を持つ音響機器メーカーの老舗で、1945年の設立以来、先進的な技術で多くのプロフェッショナルに愛用されてきた実績を誇るトップ・ブランドです。ギター・アンプやドラムのレコーディング時に定番として使われている、MD421（通称、クジラ）を筆頭に、ヘッドホンやイヤフォンに至るまで、あらゆる分野の音響機器で高い評価を得ています。

ワイヤレス・システムの分野でも、1957年から開発/改良を重ねてきたという長い歴史を持っており、いかなる環境においても安心して使用できるのが最大の魅力です。これはトラブルが許されないプロフェッショナルの世界でも絶大な信頼を得ていることから実証済みと言えるでしょう。evolutionシリーズは、そんなSENNHEISERの持つ高い技術力を、手頃な価格で実現した製品。プロの現場で培われてきたノウハウのおかげで、ギタリストはプレイだけに集中することができるのです。

### その2 サウンドへのこだわり

SENNHEISERのワイヤレスが支持されている2つ目の理由が、音質へのこだわりです。いくらケーブル・レスでパフォーマンスの自由度が上がったとしても、音質が犠牲になっては元も子もありません。ew 172 G3-JBでは、従来モデルよりも伝送帯域を拡張。広い周波数レンジで、ギターのサウンドを損なうことなく伝送することができます。

その特徴が最も良く現れているのが低域部です。「ワイヤレス＝音が痩せる」というイメージは、低域がカットされることによる部分も大きいのですが、ew 172 G3-JBでは低域部をしっかりとカバーしており、低音弦のリフを弾いた際もしっかりとキマってくれます。

また、シールド・ケーブルを使った際の信号変化をシミュレーションする「ケーブル・エミュレーション機能」もユニーク。こちらはMinimum、Low、Medium、Highの4段階から切り替えが可能です。ギターはシールド



写真1 ew 172 G3-JBのセット内容



写真2 ケーブルのサウンド変化を再現する、ケーブル・エミュレーション機能

### セッティングはわずか2ステップ



1. 空いているチャンネルをスキャンする



2. トランスミッターを近づけ、「Sync」ボタンを押す

ド・ケーブルも含めてサウンドを作り上げていくものなので、こういった部分まで設定ができることから、同社の細かいこだわりが伺えます。実際にサウンドも変化するので、音作りのパラメーターの1つとして捉えても面白いでしょう。

レシーバー側にチューナーやイコライザーを搭載している点も便利と言えます。チューナーはエフェクトの中に入れてしまうと音やセの原因になることがあるので、チューナー・アウトやボリューム・ペダルなどを使うケースが少なくないと思いますが、ew 172 G3-JBのチューナーを使うことでルーティングに悩まずに済むほか、必要最小限の機材でのセットアップが可能です。さらに、イコライザーはフラット、ローカット、ローカット+ハイブースト、ハイブーストの4タイプから選択可能で、音作りというよりも、使用環境に合わせた補正用途で活用できます。

### その3 セッティングが簡単

ワイヤレス・システムを導入する上で特に心配なのが、設定や混信といったワイヤレスならではの問題ではないでしょうか。ワイヤレス機器は音を電波に乗せて伝送するため、送信機と受信機を同じ周波数に設定する必要がありますが、ここでトラブルが起こりがちと言えます。

ワイヤレス・システムで使用する周波数帯域は限られており、既に別のワイヤレス機器が使用している周波数を使おうとすると、混信という現象が起こります。混信が起こると音が出ない、他のワイヤレス・システムの音が入り込んでくる...など、ワイヤレスならではのトラブルが起こります。それを回避するため、既に使用されている周波数を避けて設定すれば良いのですが、同じバンド内やライブハウスでの出演バンド間ならともかく、ライブハウスの外...例えば、近隣に別のライブハウスやホールがある場合は、そちらの状況まで把握することはできません。

そのような際に「周波数サーチ機能」を使うことで、既に使用されている周波数を省き、最適な周波数を自動的に選択してくれるので、混信が起こりにくくなります。なお、SENNHEISER製品同士であれば最大8波を同時に使用できるため、混信そのものが起こる可能性が低いというメリットも見逃せません。

周波数が決まったら、通常は受信機と送信機側の周波数を手動で合わせて...という作業が必要ですが、ew 172 G3-JBではレシーバーとトランスミッターを近づけて、レシーバー側の「Sync」ボタンを押すだけで、赤外線で自動的に設定されます。初めてワイヤレス・システムを使う方でも、簡単に周波数の設定が可能です。

### 初めてだからこそ、信頼できるモデルを

ew 172 G3-JBは、ギタリスト用のワイヤレス・システムに必要なパーツをセットにしたパッケージです。改めて、セット内容を見てみましょう。

ギターの信号をワイヤレスで送信するトランスミッターのSK 100は、ボディ・バック型でストラップやベルトに固定して使用します。ボディは剛性の高いメタルで固定されており、優れた耐久性を実現しつつ、重量は160gと非常に軽く、プレイを妨げることはありません。なお、バックライト付きのディスプレイに必要な情報や電池残量などをチェック可能です。バッテリーは単3乾電池を2本使用するほか、本体下部がバッテリー・ボックスになっています。バッテリー切れを起こしてしまったとしても、単3乾電池はコンビニやリハーサル・スタジオなどですぐに購入できるのと、安心です。なお、アルカリ乾電池使用時には約10時間の連続使用が可能なので、新品であればリハーサルからライブが終わるまで、バッテリーが切れてしまう心配もありません。



写真3 受信機は最小限のボタンのみという、シンプルなデザイン。様々な情報を表示可能なディスプレイはバックライト対応



写真4 受信機の背面部。XLRとフォンと、アウトプットは2つの端子を搭載

ギターのアウトプットとトランスミッターを接続する専用ケーブルがCI 1です。ギター側は通常のフォン端子ですが、トランスミッター側がロック付きのミニ端子のため、付属の専用ケーブルを使って接続します。ロック機構を採用しているため、万が一、ストラップからトランスミッターが外れたとしても、ケーブルが抜けてしまう心配はありません。

受信機のEM 100は、ハーフラック・サイズのボディに必要機能がシンプルにまとめられています。背面のアウトプット端子とエフェクターのインプットをシールドで接続したら、あとは電源を入れるだけで準備完了。2本のアンテナを使用することで、しっかり電波を拾ってくれます。SK 100との組み合わせでは、150mという送受信距離を実現しているため、様々なセッティングが可能です。

受信機側で送信機の電池残量をチェックできるという点もポイントです。多くの場合、ボディ・バックはストラップの背中側に付けることになるので、演奏の合間などにバッテリーの残量をチェックするのは容易ではありません。その点、EM 100側でもバッテリーの残量チェックができるというのは、なかなか嬉しい機能なのではないでしょうか。

近年、多数のメーカーから様々なワイヤレス・システムが発売されており、価格だけで見ると、より安価なシステムの方が魅力的に思えるかもしれません。しかし、低価格化を実現するために機能をそぎ落としているケースがあるのも事実で、安価なデジタル・ワイヤレスではレイテンシーが発生してしまうことも考えられます。

ワイヤレス・システムを選ぶ上で最も大切なのは、安心して使用できるということ。周波数サーチ機能や赤外線シンク機能で設定のミスを防ぎ、プロフェッショナルの世界で培われた高い技術とサウンドで生まれたew 172 G3-JBは、ギター用ワイヤレス・システムを初めて導入する方にこそ使って欲しい、SENNHEISERならではの高品質、高性能、高い信頼性を兼ね備えたワイヤレス・システムです。



写真5 バッテリーは単3乾電池を2本使用



写真6 クリップで、ストラップにしっかり固定できる



写真7 軽量なので、演奏の邪魔になることもない